暑中お見舞い申し上げます

団体長あいさつ

より身近な団体へ

日本塗装機械工業会
会長 木下 真生

皆さま、暑中お見舞い申し上げます。CEMAの木下です。めまぐるしく不安定かつ先が見えない変動と混乱を経て、やっと地に足が付いたと感じられる様々な新政策が安倍内閣によって矢継ぎ早に打ち出され、日本の先行きにも光が射し込みだしたという感じがしています。もちろんこれらの諸政策が全て思惑通り、狙い通りの結果を出してくれるという保証はないと思いますが、少なくとも思い付き的な行き当たりばったり、国民の人気取りばかりに焦点を当てているような、いわゆるポピュリズム的な政治よりはるかに信頼が置けるのではないかと思っているのは私一人ではないと思います。

37年前の1976年8月に19社で活動を開始したCEMA（Coating Equipment Manufacturers Association）は、その後幾多の変遷を経て、今日では正会員、賛助会員、NET会員を合わせ64社を擁する任意団体として力強い歩みを展開してきております。CEMAは一体どんな活動展開をしているのだろう、と思われている皆さまにこの機会をとらえてその主たる活動内容を簡単にご紹介いたしたいと思います。以下箇条書的に述べさせていただきます。

1. 塗装をキーワードとするCEMA参加各社による連携と相互交流と親睦のための活動
2. 塗装、表面処理、塗料、薬品などをキーワードとする他団体との交流を通しての〝塗装文化〟の深化、発展。自己の立ち位置の確認（塗装技術委員会）
3. CEMA主催による広義の塗装、塗装技術、環境関連を啓蒙するための技術シンポジウムの開催（シンポジウム委員会）
4. 塗装機器、設備などの出荷統計の集計、公表（機器部会、設備部会）
5. 政府、行政による環境改善、保全に関係する法令コンプライアンスの受け皿、実行主導団体（運営企画委員会、工業塗装高度化協議会、環境技術分科会）
6. CEMAホームページを通じて塗装用語集の編纂。これによる業界使用用語の統一化促進（技術部会）
7. CEMAホームページを通じてページリンクによるCEMA参加各社の製品商品紹介。また国内外の関連諸団体の紹介。
8. 塗装技術が中小ものづくり高度化法（サポイン法）に基づく特定基盤技術として指定産業となるための諸活動（実現済み）
9. 3K（臭い、汚い、危険）のイメージで捉えられる〝塗装〟のマイナスイメージを、〝塗装こそがものづくりの仕上げを支える重要産業〟というプラスのイメージに変えていくための各種啓蒙活動（業界各メディアのサポート役割大）

これらに加え、今年はさらにCEMAとして、Automotive協議会、ものづくり懇談会、の2つの新しいグループを立ち上げ、さらに活発な活動を展開していく所存であります。

これまでにも増してCEMAが皆さまから身近に感じられる団体となるよう、会員一同努力していきますので何とぞよろしくご支援の程お願い申し上げます。

それでは暑さ厳しき中、皆さまのご活躍をお祈りし暑中のごあいさつとさせていただきます。